

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400313		
法人名	社会福祉法人比内ふくし会		
事業所名	グループホームひない		
所在地	秋田県大館市比内町新館字真館21番地2		
自己評価作成日	平成30年11月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

詳細なアセスメントから、生活リズムの把握に努め入居前と入居後の暮らしが可能な範囲、継続したものとなるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年1月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者に対する職員の言葉遣いがとても丁寧である。それは入居者個々の尊厳を大切に、それぞれの思いを尊重することにつながる。また自然にも恵まれた中でゆったりとした暮らしが出来る。さらに、折にふれて色々な所へ出かける事が多く、単調な生活にならないようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム玄関に掲示し、職員が周知できるよう努めている。	理念は施設開設準備中に職員皆で話し合われ考えたものである。色々な思いで暮らし、関わってきた人への思いを大切にその人らしく生活していけるよう、日々の生活の中で職員の心のよりどころとして意識されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事や地元スーパーへの買い物、これまで利用してきた理髪店等に外出し、暮らしの継続と地域住民との交流を図っている。	学校、地域の行事に積極的に参加している。地元スーパーへの買い物、これまで利用してきた理髪店へ行かれたり、ご家族と出かけたりと色々な生活の場面で地域とつながりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地元中学校に職員が出向き、事業所の概要や認知症高齢者との関わり方等の講話をしている。その他、運営推進会議にて、地域住民の方へ現状(帰宅要求者への対応)を伝え理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の近況報告や今後の行事等を説明。このことに対して、委員から提案・要望等を確認している。	運営推進会議には、地域住民・利用者・利用者家族等参加者が多く活発な意見を頂いている。近況報告、今後の行事等を説明し、利用者からは、直に自分の思い等を話していただくなどサービス向上に活かしている。委員からは意見や質問、情報などをいただき、熱心な話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ市の担当者に参加していただき、現状について報告することで事業所内の実情について理解していただいている。	運営推進会議に市の担当者も参加しており、事業所のサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。生活保護受給者の相談なども行い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を発足。身体拘束になり得る援助方法や環境等、職員間での検討を行い身体拘束ゼロに取り組んでいる。	職員は身体拘束の内容とその弊害を認識しており、入居者が安全に安心して気持ちよく暮らせる環境作りに努めている。身体拘束適正化検討委員会を発足し定期的に勉強会、話し合いを行い、身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてのマニュアルを作成し、内容について職員間で共有を図っている。また、定期的に委員会を開催し事業所内で虐待となり得る事項について確認し言動から見直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を必要とする方はいないが、内部研修を実施する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には詳しく説明を行い、同意をいただき交付している。その他の不明点に関しても、都度説明することに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加時や面会の際に要望を伺っている。また、ご家族と意見交換会を行い、要望や意見を聴取している他に、サービス向上のためのアンケート調査を実施している。	家族と意見交換できる場を作ろうと、一緒にキリタンポを作って会食し、その後意見交換の場を設け、どんな小さな意見でももらえるようにしたり、家族アンケート調査を行い、サービス向上に活かすなど、運営に反映する努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやケアカンファレンスに出席し、職員と意見交換・伝達を行い、必要であれば業務改善に努めている。	日頃からコミュニケーションを図るよう配慮されており、育成面談シートに自身の目標をもとに個人面接を行っている。入居者中心の生活を大切に小さなことでも職員が考えた意見を出しやすい環境にある。また、施設長が1日1回ホームに顔を出してくれており、要望等を話す機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談を行い、職員から目標や自己評価を聞き取りを実施している。また必要に応じて助言を行い、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所開催の内部研修やスキルアップに必要な外部研修への参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて、法人内同種別の事業所と連絡会議を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所の概要を説明するとともにホーム内を案内する等、本人・家族の不安軽減に努めている。事前面談時には本人・家族の要望を聴取しサービスに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に家族からの要望を聴取し、サービスに反映させている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、調理や洗濯、掃除等身の回りのことを協力しながら実施することで協調性を高めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や病院受診時、毎月の現況報告、運営推進会議の場で近況を報告している。今後は報告だけではなく、意見交換の場を持つことで質の高いサービスに繋げていく必要がある。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元スーパーへの買い物外出や地域行事への参加、行きつけの理髪店の利用等を継続的に実施している。	買い物、散歩、楽しみごとのための外出や地域の行事に参加したり、受診の為遠方から来られた家族と温泉に入り、自宅に泊まり親戚の方の集まりに出席したりするなど、これまでの関係継続に努めながら思い出が途切れないよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や外出時を活用し、交流できる場を提供している。また、普段からの家事作業等を通して、協調性を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が必要となり退居された方に対して、退院の目途が立った場合や不明な点があった場合には、相談していただけるよう家族に伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や入浴方法、排泄等について、個別で嗜好やこだわりを聴取し、サービス提供に努めている。	その人の背景を捉えながら細かなアセスメントを大切にし、思い、希望、意向、悩みなどの把握に努めている。集団生活の中でも利用者本位になるようサービス提供に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から生活に対する意向を確認している他、ケアマネージャーからの情報提供を受けサービスに反映している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、ケース記録(PC)を基に一人ひとりの状況を確認し、情報の共有に努めている。その他、本人の意向(行動や言動)をケースに記載し現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの要望を聴取し詳細なアセスメントからの介護計画作成に努めている。ケース記録にも日々の生活の中で本人の言動や行動、意向を記載し、介護計画・モニタリングに活かしている。また、必要に応じてカンファレンスを開催し、課題解決等に職員全体で取り組んでいる。	利用者の思いを知る為に24Hシートを使用している。詳細なアセスメントのもと、ケース記録には日々の生活の中での本人の言動、行動、意向が記載されており、介護計画、モニタリングに活かしているのが確認できた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの心身状況を確認し、申し送りやケース記録(PC)を基に情報を共有し、統一したケアを提供できるよう努めている。また、状態変化時等には都度カンファレンスを行い、見直しを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物外出や地域行事の参加、行きつけの理髪店の活用等を促している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や薬局、本人・家族が希望する医療機関を継続的に受診している。	受診は本人、家族の希望を大切にし、入居前からの医療機関を継続的に受診している。地元の歯科医、薬局とも相談できる関係にある。	
29		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診時に看護師へ現状を報告し、情報を提供している。また、口頭伝達の他、正確に伝わるよう情報提供書を提出している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は管理者又は、計画作成担当者が状態確認のため病院に訪問し、必要に応じて医師、看護師と情報交換を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化又、常時医療行為が必要となった場合の事業所で『できること、できないこと』について説明している。	入居時、重度化、常時医療行為が必要となった場合の事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し、法人内外を問わず色々なサービスの情報提供を行い、安心して納得できる相談支援に取り組まれている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。緊急時・急変時には迅速に対応できるよう消防職員による普通救急救命講座を開催する予定。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を隣接している特別養護老人ホームはなみずきと実施し、協力体制を再確認することができている。	総合訓練を隣接している特別養護老人ホームはなみずきと実施し協力体制を確認している。また、独自に火災予防上の自主検査を行って、職員の防災教育を行っている。火気関係として電気器具、配線の老化、損傷を朝夕2回チェック表に記入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの性格や自尊心を理解した上での声掛けに努めている。今後も入居者の想いを大切に尊敬の念で関わりあっていく。基本的に1対1のケアに努め、入浴時には露出を最小限に抑えることができるよう配慮している。	職員は利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、いつでも丁寧な言葉で接している。こうした光景には、暮らしに温かみを感じられる。信頼関係ができ親しくなっても、丁寧な言葉遣いは変わらない。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇の時間を含む日常生活の中で、自己決定ができる環境、雰囲気づくりに職員全体で取り組んでいる。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自律した生活を送っていただくためにも業務を優先した、また職員中心の誘導は避け、入居者の要望に可能な範囲沿うようケアにあたっている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者それぞれに価値観があるという事を踏まえ、その人らしい身だしなみやおしゃれがある事も理解し、支援を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者・職員が共に買い物に出かけ、調理、後片付けを行っている。食事のペースは個々に応じ対応。職員は入居者の好き嫌い、食べやすさ等に配慮した食事メニューを提供し、楽しい時間となるように努めている。	利用者の状態に応じて可能な範囲で食事の準備、後片付けを手伝ってもらうなど会話や笑顔のある場面が見られた。食事のペースは個々に応じて対応しており、職員は入居者の好き嫌い、食べやすさ等に配慮した食事メニューを提供していた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記載することで状態観察に努めている。又、個々の習慣に応じお菓子の提供時間や量などを考慮し提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態に応じたケア若しくは見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握するためにチェック表を活用。誘導する際の声掛けも、他入居者に気付かれないような配慮をしている。また、排泄用品(おむつ・PTイレ)の必要性を定期的に話し合い、見直し・改善を行っている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握してさりげない声掛けやトイレ誘導をしている。介護用品でない日常のトートバックなどを利用することで、他の入居者におむつ交換と気付かれないような配慮をしている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立には常に野菜を取り入れ、定時の水分補給の他、排便状況を排泄表に記録し便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いすることなく、ご本人の希望に沿うことを基本としている。拒否ある場合は、時間を見合わせることや職員や性別を変える等し、対応している。健康状態にも注意し、安全に入浴できるように努めている。	曜日は決めているが、入居者個々の希望になるべく添うよう時間帯を変えたり、シャワー浴や清拭のみに変更したりしている。またプライバシーに配慮し、1対1で介助するようにしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なりネン交換、離床時のリネン類の整理に心掛け、一人ひとりのリズムに合わせて休息・安眠出来るように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量・副作用は処方される度に確認している。症状の変化が認められた場合は、速やかに主治医や、かかりつけ薬局への連絡相談を行っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意とすることを把握し、自信と達成感が得られるよう家事や掃除、洗濯たたみ等を行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散髪希望など、本人の希望に沿った外出支援を行っている。外出希望時など家族の協力を都度説明し、理解していただき対応してもらっている。家族が対応できない場合には、職員で希望に沿った外出支援を行っている。	帰宅願望のある人には一時的にドライブに連れ出したり、日常的にも、近くの花火大会や、法人内の行事、施設見学などへ出かけている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される入居者には、希望に応じ自由に使えるように対応している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることや外部からの取り次ぎも可能。家族からの連絡がしばらくない場合は、積極的にホーム側から連絡をしている。その他、月始めには家族へお便り(現況報告)を郵送している。また、独自の広報も発行している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感あるホームを目指し、玄関、リビングには季節感のある花を飾っている。また、温度、湿度に留意し、必要に応じて換気・エアコンの使用にも気を付けている。その他、外景を眺めることができる大窓に家具等が重ならないよう留意している。	季節感や自然を感じることができるよう、大きな窓を遮らないように物の配置を工夫している。エアコンを上手く使い適当な室温に保つよう気をつけている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ空間の中でも離れた場所に椅子や小さいテーブルを配置し、一人の時間や気の合う方同士がお話ができる場を設けている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や飾り物など、馴染みの物を持参していただき、安心できる居室空間を心掛けている。	居室には備え付けのベッドの他、個人個人の使い慣れたものを持ち込んだり、大切な人の写真を飾ったりと、少しでも過ごしやすい環境を整えようとしている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時に事業所内を案内し、建物内部を理解していただく他、理解が困難な方に対しては職員が付き添い、誘導するようにしている。		